



先輩に聴いてみた

実習 STORY FILE

取材:『Clinical Study』編集室
編集協力:本間 美加子

先輩看護学生が、実習での経験や思い出を、1年生の皆さんに語るコーナーです。
今回は、新1年生の皆さんに向けて、初めての实習で心がけたこととコミュニケーションのポイントをうかがいました

ストーリーファイル

今月の先輩

神奈川衛生学園
専門学校の新2年生の
皆さん

初めての实習で心がけたことや気をつけたことを教えてください。

佐藤: 援助の実施中に疑問に思ったことは自分一人で判断せずに、先生や指導者に質問したり、後から調べたりするよう心がけました。援助に関する疑問は、それを行う根拠を理解していないことから生じるので、日頃からすぐに調べて理解するようにしています。

前野: 実習全体をとおして達成したい目標と、その日1日で達成したい目標を毎朝確認し、その日のうちに振り返りを行うようにしました。自分が行うべきことを意識しながら実習に臨めたので、記録物もスムーズに書くことができました。

白田: 事前学習として、受け持つ可能性がある患者さ

んの疾患の病態を重点的に調べておきました。また、実習中は患者さんとのコミュニケーションで緊張しないように、話す内容や聞きたい情報をあらかじめ整理してから訪室するようにしていました。

松浦: 自分に必要な睡眠時間を把握し、確保することです。睡眠不足は集中力の低下につながるので、隙間時間も使って眠るようにしました。また、記録物の作成に時間がかかることは初めからわかっていたので、実習中はこまめにメモを取り、記録物を書く際の助けとしました。

長崎: グループリーダーを任されていたので、メンバーとの報告・連絡・相談といったコミュニケーションを密に行うように気をつけました。実習の前半では、全員が同じ回数だけ援助を実施することができず、経験に偏り

先輩看護学生から...

新1年生に向けてアドバイスをお願いします!

ながさき らむ
長崎 来夢さん

ふだんから解剖生理学と病理学の勉強にしっかり取り組んでおきましょう。手技は、手順書を読まなくても援助できるようになるくらいまで、たくさん練習を重ねてください。



さとう るみ
佐藤 瑠美さん

臨地実習は学内演習のようにはいかないことも多いですが、自信のなさは患者さんに伝わってしまうので、日頃から基礎的な練習を重ねておくことが大切です。しかし、だれしもミスはするので、完璧を目指すのではなく、成功体験と失敗体験を積みながら実習に励むという姿勢がよいと思います。



しろた しんた
白田 俊汰さん

看護学生生活は大変なこともたくさんありますが、そのぶんやりがいもあります。日々の努力が報われるときが必ずくるので、「看護師になりたい」という気持ちを強くもって困難を乗り越えていきましょう。



まつうら とうこ
松浦 桐子さん

臨地実習に備えて、適切な睡眠と食事で体調を整えておいてください。また実習では、気になったことはそのままにせず先生や指導者に質問しましょう。あまり心配しすぎず実習を楽しむことも大切です!

まえの あんな
前野 安菜さん

事前学習をしっかり行っておくことで臨地実習を楽しむことができると思えます。患者さんと接することができる貴重な機会ですので、何事にも積極的に取り組みましょう。



が出てしまいました。その反省を踏まえ、後半はみんなでスケジュール管理を見直し、問題を解決することができました。

患者さんや看護師さんとのコミュニケーションで大切だと思うポイントは何ですか?

佐藤: 看護師さんに話しかけるときは「お時間よろしいでしょうか」と、まず相手の都合を確認してから、なるべくはっきりとした声で話すと思います。患者さんとのコミュニケーションでは、どんな情報を収集したいのか、目的を明確にしてから話すことが大切だと感じています。

前野: しっかりと相手の目を見ながら話すことや、積極的に質問することです。看護師さんには学ぶ意欲が伝わりやすく、患者さんには関心をもって話しかけていることが伝わりやすくなると思います。患者さんの場合は、信頼関係の構築にもつながります。

白田: 患者さんが自分に何を伝えたいのかきちんと理解するためにも、傾聴する姿勢が大切だと思います。看護師さんに報告するときは、事前に情報の優先順位を決めておき、簡潔で根拠の伴った報告ができるよう意識しています。

松浦: 患者さんに話しかけるときは、はきはきとしたあ

いさつと笑顔を忘れないようにしています。患者さんには威圧感を与えず、笑顔でいることで私自身の緊張もほぐれるので、コミュニケーションがスムーズになるように感じています。

長崎: 高齢の患者さんは高い声が聞き取りづらい方が多いので、低い声でゆっくりはっきり話すように意識しています。情報収集の場面では、患者さんの話すペースにのまれてうまく情報を得られなかった経験から、質問するタイミングを患者さん個々に見きわめることが大事だと思っています。

SCHOOL PROFILE



神奈川衛生学園
専門学校
〒238-0052
神奈川県横浜須賀町2-34
Tel: 046-850-6310

1988(昭和63)年に創立された、東洋医療総合学科と看護学科の2つの学科で医療人を育成する専門学校です。学科どうしの交流により、在学中からチーム医療を学ぶことができます。「リンパドレナージ療法」を学ぶ授業は学校の特色で、マッサージの手技を身につけることができます。

『クリニカルスタディ』編集部では可能な限り感染予防策を講じ、必要な配慮を行ったうえで取材しております